



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとなの 医療センター

アートプロジェクト

— 今月のショット —



毎月一回の植え替え作業をする福祉施設ふじみ園のメンバー

— お揃いのベストと帽子を新調 —

2016年 4月号

— 院内の小さな声から —

香川小児病院時代、時々事務局の入り口に立派なオールドローズが飾られることがありました。新病院になっても事務局のカウンターの前に時々季節のお花が出現し、職員の心を和ませてくれています。そのお花を自宅から持って来てくれているのはYさんです。Yさんは本当にセンスがいい。深いピンクのオールドローズにシルバーリーフを合わせたり、透明感のあるブルーのニゲラにし白くて繊細な一重のバラ。うっとりするような取り合わせで花好きの人の心をつかみます。それに何よりびっくりなのはその全てのお花はご自宅で育てたものだということ。「そうだ!!!」ある日私の頭の中に電撃が走りました。そしてYさんのところに走り寄ると「屋上庭園の管理を手伝ってもらえない?」とお願いしました。すると思いがけず快諾。その日からYさんの猛烈なガーデニング魂に火がつけました。毎日、仕事の空き時間を見つけては屋上で草を抜き、土を耕し、花を植えてくれます。たった数ヶ月で屋上の一角は見違えるようなイングリッシュガーデンに。「好き」の情熱こそが問題の突破口なんだなあとしみじみ。心から感謝しています。



上高地の風景

— 屋上ガーデニング —

屋上庭園の管理は開院当初からの難題でした。軽量土壌を使用しているため土の深さは10cmほどしかなく、広く深く根を張る植物は不向きです。そこで根が浅く暑さにも寒さにも比較的強い多肉植物を選んでびっしりと茂らせる計画だったのですが、屋上庭園の夏は猛烈に暑く、冬は強風と凍て付く寒さにさすがの多肉植物もほとんど定着しませんでした。それなのに茅やよもぎやセイタカアワダチソウなどはどこからともなくやって来てなぜか元気にすくすく育ちます。たくましいけど困ったものです。業者さんにお問い合わせすればもちろん綺麗に草取りしてお花を植えてくれますが、それだけコストがかかります。それに安易に手入れを外注してしまうと、「自分たちが関わっていない庭」に対する職員の関心や愛着はいつまでたっても湧いてきません。そこで庶務班長と相談して月一回の草取り作業を計画しました。それでも足りない部分は近隣の福祉施設ふじみ園に協力いただけないか相談しました。そしてふじみ園で育てている苗を買って、配送してもらうことになりました。話の流れで配送の時にバスで入所者の方も一緒に来てもらって作業を手伝ってもらう。というのはどうだろう。ということになりました。そして、ただ、作業をしてもらうだけではなく、レストランで食事したり、コンビニで買い物したり、遠足のような気分でもらえれば。ということに発展しました。いつも園外作業に行く時は花を植える係、掃除する係、など分担が決まっていますが、当院では皆で花を植えて、皆で掃除してもらうことにしました。もう一年になりますが、皆さん、楽しみに来てくれています。この作業の為に揃いの帽子やベストも新調されました。今月からは善通寺西、東中学校のボランティア部の皆さんが寄せ植えを飾ってくださることにになりました。沢山の花々がそよぐ屋上庭園まではまだまだ遠い道のりになりそうですが、同志を募りつつ、あきらめず、屋上ガーデニングに取り組みたいです。

作家名: 吉田 奈